

もうひとりいる	102
神在月 かみありづき	98
赤いランドセル	94
タクシードライバー	90
暗い車窓 くろしやそう	86
ゆきおんな	82
見知らぬ親友	78
テレビモニター	74
水音	70

光る人	34
風鈴 ふうりん	30
火点しごろ ひとも	26
洗濯機 せんたくき	22
センサー式 しき	18
むしばむ	14
最終走者	10
潮干狩り しおひがり	6

駄菓子屋 だがしや	138
靴音 くつおと	134
夕焼け階段 ゆいだん	130
箏笛 たんす	126
みいつけた	122
中古ゲーム機 き	118
つり橋	114
店の入口	110
通せんぼ	106

背まもり せ	66
迷子 まいご	62
学食	58
川あそび	54
駐輪場 ちりんじやう	50
誰？ だれ	46
ガチャガチャ	42
圏外 けんがい	38

潮干狩り^{しおひが}

「おい。そろそろ帰るぞ」

しゃがんで貝を探^{さが}していると、

遠くで父の声が聞こえた。

気がつくと、潮^{しお}が満^みちはじめている。

足元に見えていた砂地^{すなじ}は、すっかり隠^{かく}れ、

いつの間にか、くるぶしまで海水に浸^{ひた}っていた。

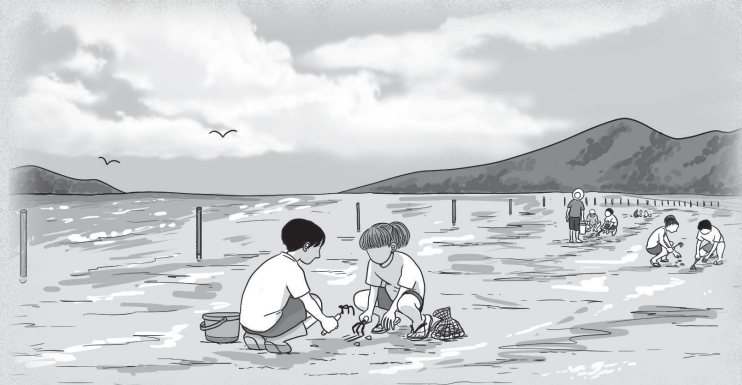
「早く戻^{もど}らなきゃ」

手元に置^おいた貝を入れた網^{あみ}を持って、

立ち上がろうとしたわたしの足を、

ギュッと 何かがつかんだ。

何かがつかんだ



遠浅の海岸で、貝を探す「潮干狩り」。
身近なレジャーとして、人気があるようです。
整備された海岸とはいえ、
潮の満ち引きは、自然のままですから、
夢中になって貝を探しているうちに、
いつの間にか、満潮の時間になり、
慌てて岸まで戻る人たちの姿を、
見ることがあります。
自然の時間を取り戻した海には、
わたしたちの知らない世界があるのかもしれない
せん。

